

I 類 B

専 門 問 題

令和 2 年 9 月 施 行 職 員 採 用 （ 保 健 師 ）

指示があるまで開いてはいけません。

注 意

- 1 問題は全部で **15 題**あり、ページ数は **16 ページ**、試験時間は **1 時間 30 分**です。
- 2 択一問題については、選択肢（1～4）の中から正答を一つ選び、その番号を解答用紙【択一】に記入してください。
- 3 記述問題については、解答を解答用紙【記述】(A～E)に記入してください。
- 4 この問題用紙は、持ち帰ることができます。



平成25年4月に厚生労働省が通知した「地域における保健師の保健活動に関する指針」について、正しいものを選びなさい。

- 1 約10年ぶりに改正した背景には、地域包括ケアシステム、がん対策、難病対策等、保健師の活動をめぐる状況の変化が影響した。
- 2 保健師の保健活動として、住民に対する直接的な保健サービスや福祉サービス等の提供とともに、地域特性をいかした健康なまちづくり、虐待対策の推進が盛り込まれた。
- 3 いままで保健師が取り組んできた住民の自助や共助を支える地区組織活動とは異なるソーシャルキャピタルという概念が示された。
- 4 保健師の活動を推進するための方策としては、地域診断に基づくPDCAサイクルの実施や地区担当制の推進、統括的な役割を担う保健師を配置することが求められた。

難病の医療費助成制度に関する記述について、正しいものを選びなさい。

- 1 医療費助成は、特定医療費の支給として難病の患者に対する医療等に関する法律に示されている。
- 2 医療費助成の対象は、特定難病で症状が一定程度以上のものであるとされている。
- 3 医療費助成の申請には、かかりつけ医の診断書「臨床調査個人票」が必要である。
- 4 医療費助成の受給により、長期に療養が必要な難病の患者は、無料で医療を受けることができる。

調査研究において、観察対象集団を選択する際に生じるバイアスを選びなさい。

- 1 面接者バイアス
- 2 暴露疑いバイアス
- 3 志願者バイアス
- 4 診断疑いバイアス

厚生労働省が作成した「感染症発生動向調査結果（平成30年）」の全数把握対象疾患のうち、最も報告数が多かった疾患を選びなさい。

- 1 結核
- 2 感染性胃腸炎（ノロウイルス）
- 3 麻疹
- 4 インフルエンザ

保健師が、ICT*を利用する上での注意事項として正しいものを選びなさい。

- 1 ICT を利用した情報伝達は、詳細な内容が書き込めるため、対面よりも真意が伝わりやすい。
- 2 情報を発信する前に、何度も読み返して問題がないことを客観的に評価する必要がある。
- 3 写真を掲載する場合、公共の利益があると判断されれば位置情報による場所の特定については免責される。
- 4 ICT を利用した相談は、誤った情報を元に相談してくる場合もあるため、受信したままにしておく。

※ information and communication technology : 情報通信技術

産業保健に関する記述で正しい組み合わせを選びなさい。

- A 産業保健総合支援センターは、労働者数100人以上の事業場において産業保健活動に携わる産業医、産業看護職、衛生管理者などの活動を支援するために、産業保健研修や専門相談などを実施している。
- B 地域産業保健センターは、労働者数50人未満の小規模事業場に対して、労働者の健康管理や健康診断結果についての医師からの意見聴取、個別訪問による事業場への産業保健指導などの産業保健サービスを提供している。
- C 障害者職業総合センターは、職業リハビリテーションに関する研究、技法の開発及びその成果の普及、障害者職業カウンセラーによる地域に密着した職業リハビリテーションサービスを提供している。
- D 地域障害者職業センターは、障害者に対する専門的な職業リハビリテーションサービス、事業主に対する障害者の雇用管理に関する相談・援助、地域の関係機関に対する助言・援助を実施している。

- 1 AとB 2 CとD 3 AとC 4 BとD

保健師が障害者を支援する際のポイントについて、最も適切なものを選びなさい。

- 1 障害者本人の状況は、障害者手帳から判断する。
- 2 家族の休養のために、保健師の判断でレスパイトケアを導入する。
- 3 障害者に対する支援制度について知り、利用できる制度はすべて利用する。
- 4 各支援者が、障害者本人・家族との信頼関係を築けるよう配慮する。

災害発生時に、東京都の保健所が担う役割として最も適切なものを選びなさい。

- 1 被災者の救出
- 2 医療救護所の開設
- 3 避難所の感染症対応
- 4 飲料水の供給

「生きているのがつらい。死にたい」と若い女性からの電話相談が入った。話を聞くと、職場での人間関係に悩み、精神科へ受診しているとのことだった。保健師の対応に関する記述について、最も適切なものを選びなさい。

- 1 自殺の危険が高いと判断し、ただちに専門機関へ連絡するようにすすめる。
- 2 継続した治療の必要性を伝え、今の主治医へ相談をするようにすすめる。
- 3 職場へ安心して通えるように、まず上司へ仲裁してもらうようにすすめる。
- 4 今は静養することを優先し、仕事を辞めて、自宅で過ごすようにすすめる。

平成27年3月27日に厚生労働省が告示した「地域保健対策の推進に関する基本的な指針」にある「保健所の運営」について、正しい組み合わせを選びなさい。

都道府県の設置する保健所は、次のような地域保健の拠点としての機能を強化すること。

- (1) なまちづくりの推進
- (2) 的かつ技術的業務の推進
- (3) 情報の収集、整理及び活用の推進
- (4) 調査及び研究等の推進
- (5) に対する援助及び 相互間の連絡調整の推進
- (6) 地域における の拠点としての機能の強化
- (7) 企画及び調整の機能の強化

- | | | | | |
|---|--------|--------|----------|------------|
| 1 | A : 健康 | B : 広域 | C : 市町村 | D : 災害対策 |
| 2 | A : 安全 | B : 広域 | C : 関係機関 | D : 災害対策 |
| 3 | A : 健康 | B : 専門 | C : 市町村 | D : 健康危機管理 |
| 4 | A : 安全 | B : 専門 | C : 関係機関 | D : 健康危機管理 |

あなたは、A市に保健師として着任した。A市は、一昨年からアルコール依存症の患者の相談件数が増加しているため、保健師としてアルコール依存症対策の具体的な取り組みについて考えることになった。

アルコール依存症対策における一次予防、二次予防、三次予防の内容をそれぞれ2つあげなさい。

1 一次予防（疾病の発生を予防すること）

具体的な取り組み

①	
②	

2 二次予防（疾病の早期発見・早期治療のこと）

具体的な取り組み

①	
②	

3 三次予防（リハビリテーション、社会復帰のこと）

具体的な取り組み

①	
②	

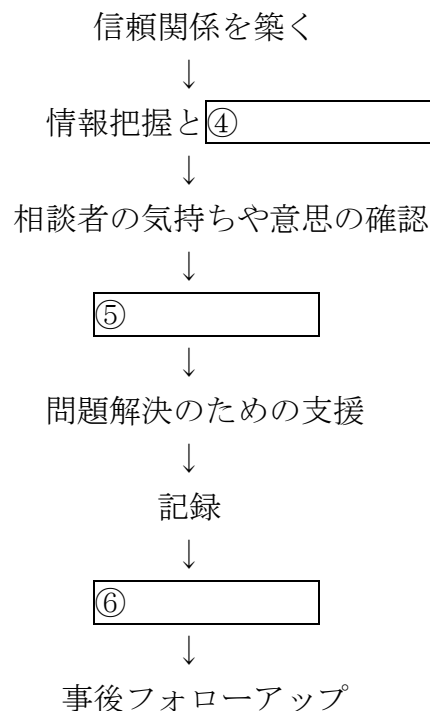
解答は、解答用紙 A に記入しなさい。

保健師が行う健康相談について、以下の問いに答えなさい。

- 1 健康相談のきっかけには、どのような場合が考えられるか。相談者から求めてくる場合を2つ、保健師の必要性から実施する場合を1つ、それぞれ具体的な例を記載しなさい。

健康相談のきっかけ	
相談者から求めてくる場合	例：情報が欲しいとき ① ②
保健師の必要性から実施する場合	③

- 2 健康相談の展開方法について、④～⑥の空欄を埋めなさい。



解答は、解答用紙 **B** に記入しなさい。

Bさんは55歳の会社員で、専業主婦の妻と2人暮らしである。2か月前に、Bさんは、重たい物が持ち上げにくくなったため、医療機関を受診したところ、筋萎縮性側索硬化症（ALS）と診断された。将来を心配した妻が保健所に来所し、「これから先進行していく病気だと知りました。今後、夫の身体が不自由になり、仕事ができなくなったらどうしようといろいろと心配です。」と相談があった。

地区担当保健師として、この家族を支援するために必要な情報把握のポイントを3つあげなさい。

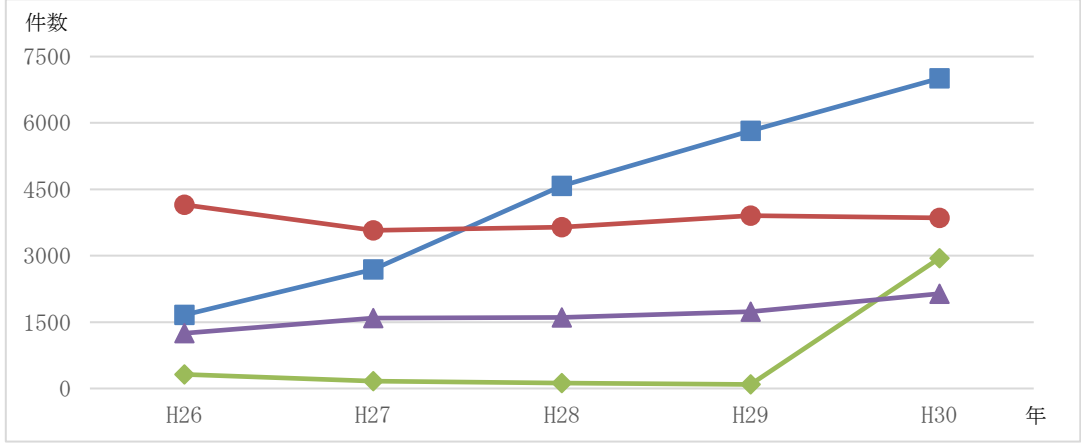
①	
②	
③	

解答は、解答用紙

C

 に記入しなさい。

下記のグラフは、「感染症発生動向調査結果」の全数把握対象疾患に記載されている疾患のうち、報告数の多い4つの疾患について、平成26年から平成30年までの推移を示したものである。このグラフを参考に、下記の設問に答えなさい。



出典：厚生労働省「感染症発生動向調査事業年報」より作成

1 下記の①から⑦の空欄に適切な語句を記入しなさい。

発生件数 (H30)	疾患名	類型	病原体	感染経路	報告数が 最も多かった年代 (H30調査結果)
7,007	①	5類	細菌	②	20歳代
3,854	腸管出血性大腸菌 感染症	③	細菌	④	10歳未満
2,941	風しん	⑤	⑥	飛沫感染 接触感染	40歳代
2,142	レジオネラ症	4類	⑦	空気感染 飛沫感染	70歳代以上

2 上記4つの疾患のいずれかについて、住民に普及啓発（注意喚起）を行う場合、どのような内容が適切か。4つの疾患のうち、1つ疾患を取り上げ、対象（集団）、普及啓発の要点をそれぞれ記入しなさい。

疾患	対象（集団）	普及啓発の要点

解答は、解答用紙 D に記入しなさい。

Cさんは夫と6か月の子の3人暮らしである。妊娠中に引っ越し、大きな川の近くの戸建に住んでいる。防災訓練に来ていたCさんから、「昨日の大雨で隣の県の山間部では土砂崩れがあり、近所の方とこれから来る台風はもっと心配と話題になりました。今住んでいる地区は、8年前の台風の際には川が溢れ床下浸水があった所だと聞いて驚きました。夫がいない時に子どもと災害にあつたらどうしようと心配です。」と相談があった。

保健師として、Cさんにどのような災害の備えを助言するか、3つあげなさい。

①	
②	
③	

解答は、解答用紙

E

 に記入しなさい。

【 メ モ 】